

正福寺報

令和3年 秋彼岸号

臨濟宗 円覚寺派
住職 松原 行樹
TEL 045-811-3800
FAX 045-811-6304
shouhukuji@nifty.com

〒245-0053 横浜市戸塚区上矢部町340

<http://shouhukuji.com/>

こころをこめて

正福寺住職 松原 行樹 ぎょうじゆ

「そもそも茶の湯の交會は一期一会といいて、たとえば幾度おなじ主客と交會するとも、今日の會に再びかえらざることを思えば、実にわれ一世一度の會なり」

江戸末期、桜田門外の変によって倒れた井伊直弼（いいなおすけ）が著したという『茶湯一会集』（ちやのゆいちえしゆう）の冒頭です。

お茶を差し上げるとき、二度とこのような機会がないと思えば、精魂込めてお茶を入れて差し上げ、そしてお茶をいただく方も、その気持ちをよくくみ取っていただくことができるでしょう。

今、この機会が一生に一度だと思つたら、今このときを大切にしたいと思いませんか？

先日、あるお檀家さんから電話がありました。

「和尚さん、余命宣告されちゃいました・・・でもね、もう先がなと思うとすべてが愛おしく感じるから、和尚さんとの電話も大切にしたいと思っています」

そのおよそ二週間後、お檀家さんはお別れとなりました。先の會話が最後のお別れとなつてしまつたのです。私たちに遺された命の長さは、あとどのくらいでしょうか。

それは誰にもわかりません。わかせることは、残された時間を完全燃焼させることです。

お檀家さんは二度とやつて来ない「今、ここ」を大切に、生きる道を示してくださいました。

二度とやつて来ない今日のこの日を、こころを込めて、一日一日大切に生きていきたいものです。